

平成29年度事業計画総括

放射線技術学は、医学、工学、物理学、数学などの多くの境界領域の学問と融合して進化しつつあり、今後さらに医学、医学物理学や理工学等の幅広い分野の会員の連携による放射線技術学の学際化と、さらには新しい放射線技術学の創成を通して社会に貢献する学会となるよう会務運営に努めたい。

総会学術大会の英語化については、平成26年の国際化特別委員会答申に基づいて昨年の第72回総会学術大会でCyposと発表スライドの100%の英語化を実施した。また、英語口述発表についても40%を達成したところであるが、継続して国際化を進めていきたい。国際的な学術連携としては、中華医学会撮像技術学会（中国）、大韓放射線科学会（韓国）ならびにタイ医学物理学学会（タイ）との継続的な連携・交流を進めて行くとともに積極的にアジア地域での新たな連携・交流先を探し、国際化の基盤を作る。一方、欧米との連携・交流も同時に進めていく。加えて、国家プロジェクトとしてのミャンマー支援事業に参画し、特別委員会を設置して具体的な支援内容を検討する。

将来構想特別委員会の答申に基づき設置した学会事業評価委員会により引き続き本学会の自己評価を行い、各事業にフィードバックしていく。また、学術大会のプログラム編成の問題点の解消と省力化を行うために学術大会運用管理システムを導入し、活用する。教育プログラムとしてe-learningを充実させ、すべての会員へ還元するとともに、引き続き会員管理システム（RacNe(ラクネ)）の機能充実を図っていく。

会員の皆さまの一層のご理解とご支援をお願いする次第である。

以下に、平成29年度事業計画の総括を述べる。

1. 学術集会事業；公1

1) 学術大会の開催

(1) 総会学術大会の開催

第73回総会学術大会を平成29年4月13日（木）～16日（日）の4日間、宮地利明大会長のもと、パシフィコ横浜会議センター他でJRCの運営により第76回日本医学放射線学会総会、第113回日本医学物理学学会学術大会ならびに2017国際医用画像総合展との併催で開催する。

また、第74回総会学術大会を錦 成郎大会長のもと、平成30年4月の開催（パシフィコ横浜会議センター 他）に向け準備を進める。

(2) 秋季学術大会の開催

第45回秋季学術大会を平成29年10月19日（木）～21日（土）の3日間、上田克彦大会長のもと、広島国際会議場（広島市）においてJRCの共催を得て開催する。

(3) 第3回国際放射線技術科学会議の準備

第3回国際放射線技術科学会議を平成29年10月21日（土）に小倉明夫大会長のもと、広島国際会議場（広島市）において開催する。

(4) セミナー・研修会の開催

教育委員会が主催、専門部会ならびに地方支部が共催で17つのセミナー・研修会を延28回開催する。

(5) 専門部会プログラムの開催

7つの専門部会が各専門分野に特化した独自の企画で春秋の学術大会にジョイントして専門部会プログラムを開催する。会員の国際化を目的として海外からの講演も積極的に企画していく。

(6) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラムやセミナーなどを開催する。また、地方支部と学術委員会、教育委員会、専門部会が協力してセミナー、研修会等を実施して地域における学術活動を活性化させる。

(7) 市民公開シンポジウム・市民公開講座の開催

公益法人としての事業の一環であり、本学会の学術領域を社会に広報する目的で今年度は3回（京都市、長崎市、横浜市）開催する。

2. 刊行広報事業；公2

1) 学会誌関連

学会誌第73巻第1号～第73巻第12号の12冊を毎月20日に定期発刊する。その中で論文特集号（第73巻11号「機能画像関連論文」）も組み込む。学術研究発表から論文化への推進を行い投稿論文の増加推進に努める。電子ジャーナルの発行を行う。引き続き、学会雑誌の電子化（冊子体の廃止）について継続して検討する。また、発足する用語集管理小委員会による用語集の管理・運用を行う。

2) 英語論文誌関連

第10巻1号を平成29年3月20日、第10巻2号を平成29年6月20日、第10巻3号を平成29年9月20日、第10巻4号を平成29年12月20日に電子ジャーナルおよび冊子体を発刊する予定で、会員の積極的な投稿を喚起する。第73回総会学術大会で土井賞、Most Citation Awardの表彰式ならびに土井賞の受賞者講演を開催する。

3) 出版活動

放射線医療技術学叢書の増刷を行う。また、放射線技術学教育関連図書の発刊ならびに発刊作業を進めるとともに既出版物の販売促進を図る。

4) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を1回～3回発行する。（電子ジャーナルを含む）

5) 部会誌の発行

各部会において部会誌を電子ジャーナルで2回発行する。

6) 広報活動

学会事業ならびに放射線技術学に関係する専門分野の研究動向などを、市民公開シンポジウムや市民公開講座などの開催、ホームページへの掲載ならびにメールマガジンの配信を通じてを一般市民含めて学会内外に広報する。

3. 研究調査事業；公3

学術研究班（15班）による学術研究を行う。放射線技術学シラバスの改訂及び動画コンテンツを推進してe-Learningの充実ならびに定着化を図る。また、学術大会において専門部会講座入門編と専門部会講座専門編ならびに秋季学術大会において教育的講座を開催する。

4. 研究奨励事業；公4

規定に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦・表彰ならびに関係省庁、関連団体被表彰者の推薦を行う。また、北海道支部、東北支部、関東支部、中部支部、中国・四国支部、九州支部において表彰もしくは研究奨励を目的に助成を行う。

5. 連携交流事業；公5

1) 国内

- (1) 関連学協会および関連団体と積極的な交流を図るとともに共同による企画などの立案を行う。放射線技術に関する関係法令に関して関連省庁や放射線審議会等から情報を収集し、整理して会員等への情報提供ならびに法整備のためのエビデンスとガイドラインを作成する。また、関係省庁、JIRAおよび関連学会と協力してIECと整合をもったJIS化作業を行い、その普及活動を積極的に行う。また、標準化にかかわる規格・コード・ガイドラインなどの協議、策定および普及に努める。放射線防護ならびに医療安全についても関連団体と連携して具体的に取り組んで行くとともに会員等への情報発信をおこなう。
- (2) JRC理事会に役員を派遣し、学術大会の開催企画に参画する。
- (3) 関係省庁、教育機関、関連学協会との一層の連携を図っていく。
- (4) 日本診療放射線技師会と共催にて平成29年度JART-JSRT合同市民公開講座（第11回公開合同学術セミナー）を8月20日に開催する。

2) 海外

欧米，東アジア地域における関連学会との国際交流においては，本学会学問領域に近い学術団体と学術交流の締結を積極的に推進する．特に，中華医学会影像技術学会，大韓放射線科学会，タイ医学物理学会との学術交流関係を継続する．また，双方の学会での研究発表を促進し，一般会員相互の交流がさらに発展するよう努力する．また，海外短期留学生の派遣，国際研究集会への派遣等の助成事業を継続して行う．